

# 緑の地球

## GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



8月の黄土高原スタディツアーは13名が参加し、植樹活動に汗を流した。

### Contents

- 夏季寄付のご報告 ..... P 2
- GEN 自然と親しむ会ご案内 ..... P 2、3
- 黄土高原スタディツアー写真報告 ..... P 4～5
- 大同緑化協力25年の軌跡 ..... P 6

2018.9  
183

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



## 夏季寄付のご報告

おかげさまで 856,978 円のご寄付があつまりました  
みなさまのご協力どうもありがとうございました

今年は豪雨、台風、地震とさまざまな自然災害に見舞われ、今なお多くの方がたが避難生活を強いられているかと思ひます。みなさまの安全と被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

被災地域への支援をした方も多かったと思ひますが、GEN へもたくさんの寄付が寄せられましたのでご報告します。7月20日から8月31日までにお寄せいただいた寄付は856,978円、61件でした。昨年同時期のご寄付が993,185円、62件でしたので、この時期の寄付

としては昨年よりも減額していますが、2018年4月1日からの累計のご寄付は112件、5,683,150円となり、今年度予算850万円の66%に達しました。みなさまのご協力に大変感謝しています。

上半期に高額の寄付があつたこともあり、現時点では順調に寄付金が集まつているようにみえますが、GENの財政が厳しいことには変わりありません。可能な範囲で今後もご協力をよろしくお願ひいたします。

また、前号でもお伝えしましたが、GEN会費やご寄付はクレジットカード

での支払いが可能になりました。GENのホームページからお手続きできますのでぜひご利用ください。(URL [http://gen-tree.org/join\\_donate/credit.html](http://gen-tree.org/join_donate/credit.html))



### 参加者募集

#### GEN 自然と親しむ会

前中代表と歩く「野の道」シリーズ⑧  
観心寺～延命寺を歩く

ご好評いただいている「野の道」シリーズは、誰でも気軽に参加できるよう、歩きやすく平坦な道を中心に最大5kmほどを歩きながら自然観察を楽しむ会として企画しています。

今回は河内長野市にある観心寺、延命寺を訪れます。観心寺、延命寺は四季折々の花木が美しいお寺で、大阪緑の百選にも指定されています。また延命寺は紅葉の名所として有名で、樹齢千年ともいわれるカエデの古木などが楽しめます。ぜひご参加ください。

- 日時：11月10日(土)10時～14時ごろまで
- 場所：観心寺(大阪府河内長野市寺元475)延命寺(大阪府河内長野市神が丘492)
- 集合：10時に南海電鉄/近鉄「河内長野駅」集合。駅からバスで移動します。
- 解散：南海高野線「美加の台駅」(予定)
- 定員：20名程度
- 案内：前中久行さん(GEN代表)

- 元大阪府立大学大学院教授)
- 持ち物：歩きやすい服装・靴、帽子、弁当、飲み物、敷物、雨具、あれば植物図鑑
- 参加費：500円(保険料をふくむ、別途バス代片道310円、拝観料300円がかかります)
- 問合せ・申込み：11月7日(水)までにGEN事務局まで氏名、連絡先、生年月日をお知らせください。
- ※小雨決行

## ご参加ください GEN 運営懇談会

今年の運営懇談会は12月に開催します。みなさんの声を運営に反映するための貴重な機会ですので、ぜひご参加ください。

- 【東京会場】
- 日時：12月1日(土)14時～17時30分
- 会場：淑徳大学東京キャンパス4号館3階フリースペース(東京都板橋区前野町2-29-3 東武東上線「ときわ台駅」より徒歩12分。ときわ台駅からバスの場合「赤羽駅西口行」乗車、「前野小学校」下車)
- 【大阪会場】
- 日時：12月8日(土)13時30分～16時30分
- 会場：クレオ大阪中央研修室(2)(大阪市天王寺区上汐5-6-25 Osaka Metro 谷町線「四天王寺前夕陽ヶ丘駅」1、2号出口から北東へ徒歩3分)

### 参加者募集

#### GEN 自然と親しむ会

秋のキノコを探しに行こう

秋はキノコの季節。秋の吉田山でキノコの観察をたのしみませんか。

今回は京都大学の東にある吉田山で観察会をおこないます。

吉田山は標高102m、登りやすいハイキングコースがあり、山頂からは大文字山が望めます。講師の栗栖さんに解説していただきながらキノコを観察し、最後に見つけたキノコの種類や仲間を調べる予定です。ぜひご参加ください。

- 日時：10月20日(土)10時～14時ごろ(小雨決行)
- 場所：京都市吉田山(京都市左京区吉田神楽岡町30番地)
- 案内：栗栖敏浩さん(樹木医、(株)環境総合テクノス環境部 菌根菌など土壌微生物に関する業務に従事)
- 集合：10時に百万遍交差点北側(京

- 阪電鉄「出町柳駅」下車徒歩7分)
- 参加費：700円(保険料を含む)
- 定員：20名(先着順)
- 持ち物：歩きやすい服装・靴、弁当、飲み物、敷物、雨具、あればキノコ図鑑等
- 申込み：10月17日(水)までに氏名、年齢、連絡先をGENまでお知らせください。



## 大阪市 RR 厚生会 ツアー中止のご報告

一般社団法人大阪市 RR 厚生会は2011年より毎年ツアーを派遣していただいております。今年も9月6日～13日の日程で派遣を予定していましたが、台風21号の影響で関西空港からの飛行機が欠航となったため、今回の派遣を中止しました。

### 本で紹介

『砂漠の越境マネジメント 黄土・植林・援助を問いなおす』深尾葉子著/大阪大学出版会/2,300円+税 大阪大学大学院准教授の深尾葉子先生の論文に加筆修正を加えたもので、黄土高原に対する理解がより深まる1冊です。

## いますぐできる GEN への協力

### ■会員の輪をひろげよう!

- 緑の地球ネットワーク会費(年額)
- 一般会費 12,000円
- 家族会費(同居の家族2人目から) 6,000円
- 学生会員 3,000円
- ジュニア会員(中学生以下) 1,000円
- 団体会員 12,000円
- 賛助会員 100,000円
- ※会費は会報購読料を含んでいます。

### ■会報を購読してください!

GENの活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読していただませんか。年間購読料2,000円。

### ■緑化基金、運営寄付もとむ

金額は自由です。また、緑化基金、運営寄付の別を問わない使途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。

\*緑化基金の20%は事務管理費になり

ます。

### ■絵はがき『黄土高原の花』

8枚組・300円(送料別途。5セット以上送料無料)

### ■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。

### ■未使用切手・古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでもOK。古切手は周囲を1cmほど残して切り取ってお送りください。

### ■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。参加可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときにGENから連絡します。

\* \* \* \* \*

### 【GENへの寄付は税制上の

優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは大阪市に認

定された認定NPO法人です(期限は2019年4月8日まで)。

個人によるGENへの寄付は、税額控除あるいは所得控除を受けられます。対象となるのは2,000円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業からの寄付金は一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また、個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定NPOに寄附すると、相続税の課税対象から除外されます。

GENの場合、寄付金となるのは緑化基金、運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち1口を超える部分、賛助会費から12,000円を引いた金額です。

また、大阪府民、大阪市民のかたには個人住民税の控除もあります。

くわしくはGENまでご連絡ください。



## 黄土高原スタディツアー 写真報告

今年は8月25日～30日の日程でGENツアー（13名）、9月1日～6日の日程で専門家派遣（2名）、9月7日～9日の日程でイオンリテールワーカーズユニオンツアー（25名）がおこなわれました。GENツアーのようすを写真で報告します。



今年のGENツアーは大同は訪問せず、蔚県と北京を訪問しました。初日の8月25日、関空、羽田から出発した参加者は北京空港で合流し、蔚県へ向かいました。8月26日、午前は市場と蔚県博物館を見学しました（写真①）。午後は暖泉鎮へ移動し、蔚



県名物の打樹花と古い町並みを見学。子どもたちが拳法の練習をしていました（写真②）。8月27日、代王城鎮でマツの植樹（写真③）、午後は蔚州郷土樹木園で記念植樹をしました。植えたあとはしっかり水やり（写真⑤）。地元の人たちと協力して大きいマツを植えました（写真⑥）。植えた後は記念撮影（写真⑦）と、蔚州郷土樹木園で湿地の見学もしました（写真⑨）。8月28日、蔚県の麻田嶺で樹木園に移植する樹木を探しました。風力発電の風車が回っていました（写真⑩）。麻田嶺で咲いていたエーデルワイスは蔚県を代表する花のひとつ（写真⑧）。8月29日、午前は蔚州古城を見学。玉皇閣などを見てまわりました（写真⑪、⑫）。昼食後、バスで北京へむかい蔚県を後にしました。8月30日、全員無事帰国しました。



# 大同緑化協力 25 年の軌跡

## 語り継がれる戦争

GENの山西省大同市での25年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で10回目です。(高見邦雄)

大同は日中戦争にさいして深刻な被害を受けました。緑化協力事業を開始した当初は、歴史問題の深刻さを知らされるたくさんの体験をしたものです。

最初に協力を開始したのは渾源県ですが、この渾源県とその南の靈丘県には山間の村などに抗日根拠地が存在し、激しく戦ったそう。当時は同じ雁北地区に属し、1993年以降は隣の朔州市にいった懐仁県の共青团書記の田東さん(のちに朔州市副市長)は私に、「その当時、この懐仁県は模範県(日本にとっての)だったから、渾源や靈丘の人たちには頭が上がらない」と話したことがあります。

その渾源県で恒山山脈のなかの官兒郷を訪ねたとき出会った人も忘れられません。父親を日本軍に撃ち殺され、17歳で抗日戦争に参加した、建国後は大同で労働者になったが、1960年ごろ食糧不足が深刻になったため、故郷の村に帰った、という人です。私の顔をしげしげと覗き込み、「ちがう、昔の日本人とはちがう。日本も社会主義になったのか?」といました。その人の人生では、平和=社会主義なのかも

しれません。

陽高県の随土営村は周囲を土の防壁に囲まれた村で、致富山の緑化に協力するため、何度もツアーがお世話になりました。ほかの人たちと離れ、私が一人になったとき、一人の年配の人が寄ってきました。「お前の国がつくった札だから、使えるお金に換えてくれ」といって、こっそり見せてくれたのは「蒙疆銀行」発行の老圓紙幣でした。

張家口を中心に、日本はこの一帯に第二の満州国をつくっていたのです。その年間収入のかなりの部分を阿片でまかかったようで、二重三重に恨みをかかったのはしかたがありません。

この地方の農村を私が一人で歩き回ったのは1992年と93年の秋ですが、だいぶあとになってそのときのことを一人の青年が話してくれました。「あなたは知らなかっただろうけど、数人の男の子があとをつけて、節をつけて歌いながら、小石をひろって投げるまねをしていたんだ」。その歌が「ダ～ダオ・リ～ベン、ダ～ダオ・リ～ベン!」打倒日本、打倒日本です。

そのころは協力プロジェクトを建設

するたびに「中日友誼林」などの大きな記念碑が建てられました。つぎに訪れると、泥で大きくバツテンや、「打倒日本!」の落書きがあったりしたものです。

緑化活動などを通じて交流と相互理解がすすみ、2011年3月の東日本大震災・大津波にさいして、大同の農村から義援金が寄せられたのは感慨深いことで、思いだすたびに涙が浮かびます。

ある女性の母方の祖父は生業で成功し、大同市の中心部に大きな家をかまえていたそうです。春節を控えて大掃除を終え、窓に切り絵を飾っていると日本人がやってきて、「この家を接収する」ということになったそう。春節前ですから、厳寒の大同のもっとも寒いときです。

その女性は戦争を知らない年代です。でも、母親からその話を聞かされつけて育ってきたので、この協力事業を担当することになり、とてもいやだったそう。

それがいっしょに木を植えて育てているうちに、これはたんなる任務ではなく、自己の実現でもあると思うようになったそう。

その女性は、緑色地球網絡大同事務所の2代目所長の武春珍さんです。ツアーに参加し彼女の情熱あふれる仕事ぶりに接したみなさん、この話が信じられますか? 25年のあいだにはいろんなことがあり、大きな変化があったのです。

10月27日(土) 鉦山跡地での「柴山緑化プロジェクト」観察。シキミ苗の採取と宿舎での鉢上げ。シキミ種子の粘土団子の作成。

10月28日(日) サトイモ・サツマイモの収穫と発送。

○問合せ・申込み: 電子メールで<matizukuri.college@gmail.com>まで代表者氏名、人数と連絡先(携帯電話番号)を明記

○申込み締切り: 10月21日(日) 必着

○宿泊場所: GEN 関東ランチ宇久須宿舎(住所: 静岡県賀茂郡西伊豆町宇久須607) (ノ)

待ちしています。

なお、今年は参加者の足となる車の数が足りませんので、車をお持ちの方のご参加を期待しております。

○期間: 2018年10月26日(金) 17時ごろ宇久須の宿舎に集合～10月28日(日) 12時ごろ現地解散

○作業スケジュール: 10月26日(金) カネジョウで懇親会

黄土高原史話<89>

## 極楽行きのパスポート

谷口 義介 (GEN 会員)

『水経注』の著者酈道元れきどうげんのことは2回書いたで、それとの釣合ようげんしい上、『洛陽伽藍記』の楊銜ようげんし之についても、前回に引き続き、もう1回ふれることにしよう。

同書の序文によると、洛陽の寺の全部はとうてい紹介しきれないから、著名な寺院だけにとどめ、マイナーなのは不思議な話がある場合にかぎり取り上げる、と。

そうした話の一つに、崇真寺の僧慧凝えいぎょうが死んで7日目に蘇生して語ったという「閻魔大王の審判の話」がある。慧凝は審問の結果、人違いであることが判明し、放免されて生き返ったわけだが、そのおり5人の僧侶も裁きを受けているのを見た。

(一) 宝明寺・智聖の場合

生前、ひたすら坐禅に励み苦行したので、「天堂」(極楽) 行きが決定。

(二) 般若寺・道品の場合

『涅槃經』四十卷の読誦どくじゆにつとめたので、やはり極楽へ。

(三) 融覺寺・曇謨最の場合

みづから1,000人の弟子に『涅槃經』と『華嚴經』の講釈をした、と陳述。しかし閻魔大王は、「経を講釈する者は、心に彼我の別をいだし、他者に勝ちみづから驕ろうとする者で、僧中最低の行いだ」として、西北の門から黒い屋舎(地獄) に送り込ませた。

(四) 禅林寺・道弘の場合

4代にわたる施主を教化し『一切経』と等身大の黄金仏10体を造った、と陳述。しかし大王は、「たとい経や像を造ったとて、それは他人の財を得たいがために外ならない」として、これも黒門に送り込んだ。

(五) 靈覺寺・宝真の場合

地方長官をしていたとき寺を造り、完成してから出家し、礼拝を欠かしたことがない、と。しかし大王は、「民の財物をかすめ取って寺を建てただけだ」として、青衣の役人(獄卒) に引き渡し、黒門せんりゆうに放り込ませた。

塚本善隆博士の『魏書釈老志の研究』(著作集第1巻、大東出版社) にいう

この説話は、「仏教学の知識の博きを競うて実践修行を忘れていた洛陽貴族仏教に対する、真剣な求道実践的僧の警告、或は貴族の豪華な造寺造像の大事業の下で、財と労力を徴発されて苦しんできた素朴な実践的奉仏者である士庶の、貴族的仏教に対する批判であり、その中から生れる求道的反省の声と解したい」。そして、「この話を今日に伝えた『洛陽伽藍記』の著者」は、「かかる説話への共感者」であった、と。ところで、地獄に送られた(三)(四)(五)の例とも、じつは坐禅・誦経につとめていなかったこともその理由に

あげられているから、(一)(二)の例とあわせ、極楽か地獄の境目は坐禅・誦経の有無にあったと判断できよう。そしてこの話は、「これより後、都の比丘びくはみな坐禅・誦経にはげみ、講釈を問題にしなくなった」、と結ばれている。

そもそも楊銜之は序文にみるごとく、中国の伝統思想と対比するかたちで、仏教への正確な理解を示している。また、巻一「景林寺」の項で、その境内には一棟の禅院があり、

「淨行の僧たちは、この禅院で繩牀すくかんに坐り、求道の苦難を忍びつつ、結跏けっかして数息観を修している」(入矢義高訳)

と。今でも坐禅堂では、老師が「身を調え、息を調え、心を調える」と教えるが、調身・調息・調心という修行法に、楊銜之も通じていたのだろう。

それかあらぬか、中国に初めて禅宗を伝えた菩提達磨(ダルマ禪師)と楊銜之が問答を交わしたという伝説が、唐代中期の『宝林伝』という本に見えるらしい(『初期禅宗史の研究』柳田聖山集第6巻、法蔵館)。

(ノ) ○費用: 宿泊費・光熱費・火災保険費・食費込みで、2泊の方は8,000円、1泊の方は5,500円

○持ち物: 農作業用の服装と靴、帽子、雨具、軍手、寝間着、シャツ、筆記用具他(布団に敷くシャツは各自持参のこと。寝袋も可です)

○アクセス: 修善寺から東海バスで宇久須バス停下車 宇久須交差点を池田医院側(東の山側)へ進む。200m程行くと、左手の垣根に「関東ランチ宇久須宿舎」の案内あり。そこが宿舎です。

※交通費は自己負担です。

以下、東京からの交通手段の例です。高速バス利用(新宿～修善寺)+路線バス(修善寺～宇久須) 高速バスは事前予約: <https://secure.j-bus.co.jp/hon/>

電話予約 0570-01-1255

東海道線利用(東京～熱海～三島)+伊豆箱根鉄道(三島～修善寺)+路線バス(修善寺～宇久須) 踊り子号(東京～修善寺)という方法もあります。

中部、関西からは清水一土肥のフェ

リーを利用する方法もあります。



## 参加者募集 GEN 関東ランチ 秋の西伊豆合宿

関東ランチ主催の秋の西伊豆合宿を今年も行います。

サトイモやサツマイモの収穫を大いに楽しむとともに、珪石鉦山跡地で進めている緑化プロジェクトにも参加していただきます。今年は、上田信先生がご都合で参加されませんが、藤原さんが中心となって下記の要領で実施いたします。たくさんの方のご参加をお



森林総合研究所関西支所 公開講演会  
**広葉樹林はお宝になるか？**  
 ～有効活用の可能性を探る～

身近にある広葉樹林の有効活用の可能性と問題点を探ります。

- 日程：10月19日（金）13時～16時30分
- 会場：龍谷大学響都ホール校友会館（JR京都駅八条口前アバンティビル9階）
- 内容：第1部 基調講演「広葉樹の遺伝資源としての重要性と保全」津村義彦氏「広葉樹林の持続的な利用のために」横井秀一氏／第2部 森林総合研究所交付金プロジェクト「広葉樹も多い中山間地で未利用資源をむだなく循環利用する方策の提案」の成果／第3部 パネルディスカッション「広葉樹林の有効活用にむけて」
- 参加費：無料
- 主催：森林研究・整備機構 森林総合研究所関西支所
- 問合せ・申込み：10月10日までに所属、氏名、連絡先を下記まで。  
 森林総合研究所関西支所地域連携推進室（〒612-0855 京都市伏見区桃山町永井久太郎 68 tel. 075-366-9905 fax. 075-611-1207 e-mail: fsm-ren@

\*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。  
 \*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

ffpri.affrc.go.jp)

大阪市北区天神橋 1-9-13 ハイム天神橋 202 tel. 06-6242-8720 fax. 06-6881-8103 e-mail: NOB@nature.or.jp)

第43期

ナチュラリスト入門講座

大阪の野生ほ乳類とその自然を理解するための入門講座です。

- 日程：9月29日オリエンテーション、大阪の哺乳動物／10月6日フィールドワーク豊能町・青見山／10月27～28日フィールドワーク能勢・剣尾山山麓、大阪の里山とシカ／11月17日フィールドワーク泉南市・畦の谷／12月1日フィールドワーク池田市・五月山／1月8日野生動物と人の関係／2月2日フィールドワーク箕面市鉢伏山／2月19日古今ケモノ囁／3月23日野生動物の食生活／3月28日最新シカ報告／4月里山一斉調査
- 会場：フィールドワーク以外は大阪市立西区民センター 18時30分～20時50分（9月29日は13時～）
- 定員：30名（18歳以上のかた）
- 受講料12,000円（宿泊費・交通費別）
- 申込み方法：住所、氏名、年齢、性別、電話番号、会員か否かを記入してはがき、ファクス、e-mailで。
- 申込み先：（公社）大阪自然環境保全協会 NOB・BOX 行（〒530-0041

グローバルフェスタ JAPAN 2018

- 日本最大級の国際協カイベントです。
- 日時：9月29日（土）～30日（日）10時～17時（予定）
- 会場：お台場センタープロムナード 東京都江東区青海1-2りんかい線「東京テレポート駅」から徒歩1分
- 入場：無料
- 主催：グローバルフェスタ JAPAN 2018 実行委員会
- 共催：外務省、JICA、JANIC
- 問合せ：グローバルフェスタ JAPAN 2018 実行委員会事務局（〒107-0052 東京都港区赤坂2-18-14 赤坂 ST ビル 4F tel. 03-3505-2235 fax. 03-3585-6671 e-mail: info@gfjapan2018.jp URL http://gfjapan2018.jp)

編集後記

台風21号、北海道胆振東部地震をはじめ日本各地で発生した災害で被害に遭われたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。（河本）